

教科名	家庭	単位数	2		担 当	
科目名	家庭基礎	必修 選択	必修	選択	学 年	2
教科書 副教材等	図説家庭基礎（実教出版・7実教・家基707） 図説家庭基礎準拠学習ノート（実教出版）					
選択対象者						
科目の 目 標	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。また、生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付ける。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力、人間力						
1 授業内容・具体的目標		前期の初めは、家族・社会との共生を学びます。自分らしい人生をつくること、家族と家庭経営の在り方、子どもと共に育つ、高齢者とかかわる、乳幼児と高齢者の生活を学び、共に生き、共に支えることを学習し、人の一生を生涯発達の視点で学び、理解を深めます。さらに、生活の自立を学び、食生活をつくる、衣生活をつくる基本的な知識を学び、調理実習や、簡単な被服実習を行い、理解を深めます。後期後半では、家族・社会との共生として、住生活を作ることや現代の消費生活の課題についても考え、生活人としての基本を学びます。最後に生活の創造として自らの生活設計について再度見直し考えます。これらを踏まえ私たちは人の一生を見通し、生活経営に必要な金銭力、時間、資源などからめ、ライフステージの課題と関連させていくことが大切であることを学びます。				
2 授業の進め方		1週間に2時間、教科書の内容を進めていきますが、授業時数の2分の1は実験・実習・作業・演習をとり入れて実践的・体験的な学習活動になるよう進めていきます。家庭科の分野は、毎日のように新聞、テレビを含めて大きく取り上げられています。家庭においても、新聞や雑誌に目を向けるなど知識を深め、実習で学んだことを、日常生活の中でも再度実践するなどして深めていきましょう。教科書中心で授業を進めていきます。教科書・ノート・ファイルを準備してもらいます。また、調理実習の時には必ず、エプロンと三角巾を持参し、身支度をして実習を行います。学習したことと、生活とを結びつけ、生活をより良くしようとする意欲と態度を持ちましょう。また、普段無意識に関わっている日常生活に関心や課題意識を持ち、その課題をひとつずつ解決していく姿勢が大切です。また、授業で実習したことは、家庭でも繰り返し実習することで、新しい工夫や手際のよい技術の習得が出来ます。				
3 評価の規準		【知識・技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などを解決する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。				
4 評価の方法		授業態度、各種提出物の状況、被服製作物、調理実習、実習記録、小テスト、定期考査、自己評価等を総合的に評価する。3観点を同等に扱い評価を行う。				

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション (1)	『家庭基礎』を学ぶにあたって具体的な学習方法や評価の仕方を知る。	『家庭基礎』を学ぶ意義や方法を理解できたか。	
	第1章 自分らしい生き方と家族 (7)	自分自身のライフコースや生活設計を考え、様々な生活の場面に必要な金銭の額を知り、自分らしい生き方について考え、将来の職業選択の方法を学ぶことや、様々な家族形態や家族に関する法律等を学習する。	各ライフステージの発達課題や、ライフイベントについて理解し、生活設計の方法と生活資源の重要性について理解できたか。また、青年期の課題である自立について理解し、職業につく意義や男女の協働や家族に関する法律の理念や現在の動きについて理解できたか。	思考力・判断力・表現力
5	第2章 子どもとかわる (8)	青年期の健康が、将来生まれてくる子どもに繋がっていることを知り、子どもの発育や発達の特徴を知ると共に、子どもの健やかな成長に必要なものごとの重要性を学ぶ。	子どもを産むことや、子どもが誕生してから幼児期までの発育や発達に関する特徴や物事の重要性を理解し関わろうとする姿勢が身についたか。また、自分や周りの命を大切なものと考えてことができたか。	思考力・判断力・表現力 健康・体力 情報収集・発信力
6	前期中間考査(1)			
	第6章 衣生活をつくる (4)	人と衣服のかかわりや、衣服の機能について理解するとともに繊維や素材の種類や特徴、性能について学習する。また、衣服の管理や保管方法について学び、環境とのかかわりについても考える。	人と衣服のかかわりについて、その背景や風土と関連させながら理解できたか。また、繊維や素材についての理解を深めると共に、衣服を管理することや、資源や環境との関わりを理解し商品選択をすることができ、簡単な衣服製作ができるか。	
7	被服実習(6)			
	第3章 高齢者とかわる (5)	高齢社会の現状を知り、高齢者への理解を深めると共に高齢者の心身の変化と生活について学び、高齢者介護の制度やサービスの内容などを学習する。	高齢化進む現代社会について理解することができたか。また、加齢に伴う心身の変化や特徴を理解し、高齢者介護の課題や介護保険制度など社会全体で支える仕組みを理解できたか。	思考力・判断力・表現力 人間力 行動力
8	第4章 社会とかわる (4)	福祉の考え方を学び自助、互助、共助、公助の状況に応じた支え合う社会づくりの重要性を学ぶと共に社会福祉制度やボランティア活動等の重要性について学習する	社会福祉や、ソーシャルインクルージョンの考え方を理解し、社会保障制度を生活課題と関連させて考える事が出来ると共に、社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動や支え合う活動への興味関心を持つことができたか。	
9	第5章 食生活をつくる(8) 調理実習(6)	食べる事と、健康のかかわり、現代の食生活の変化や、問題点を知り、5大栄養素について学習するとともに、食品の安全や選択基準、世界とのつながりを学習する。	現代の食生活や健康的な食生活の必要性に気づき栄養と身体とのつながりが理解できたか。また、5大栄養素や調味料などその他の食品を選択する方法や食中毒について理解し、何をどれくらい食べればいいのかをふまえながら献立を作成し、調理することができたか。	思考力・判断力・表現力 健康・体力
10	第8章 経済的に自立する (4)	家計の構成(収入と支出)を学習し、現代の家計の特徴を知ると共に、ライフイベントや生活のリスクに備えた経済計画と管理について学ぶ。	各種資料や帳票の読み取り方を知り、家計における収支バランスを理解することが出来たか。また、安定した経済活動を営むために資産運用や家計管理重要であることを理解できたか。	思考力・判断力・表現力 情報収集・発信力 行動力
11	後期中間考査(1)			
	第9章 消費行動を考える (6)	様々な契約や、主体的な消費行動について、また、多様化する販売方法の特徴を理解しながら学ぶと共に、消費者を守る法律や、持続可能な循環型社会を作るための方法を学習する。	契約の基本的なしくみを理解し、多様化する販売方法の種類や問題商法への対処法などを学びながら、様々な支払い方法のしくみや、計画的にお金をつかうことの大切さを理解できたか。また、消費者の権利と責任について理解すると共に、地球的規模の環境問題に対して現状を知り、自分の消費行動がどのような影響を与えるのか考える事ができたか。	
12	第7章 住生活をつくる (5)	住まいの機能や文化、生活様式について学び、平面図の読み方を学ぶと共に健康的で持続可能な安全性の高い住まいを考え災害や家庭内事故についても学習する。	住まいの機能や地域性豊かな住文化を知ると共に平面図の読み方を覚え、生活の機能に応じた住空間の構成を理解できたか。また、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について理解することができたか。	思考力・判断力・表現力 行動力
1	ホームプロジェクト (3)			
2	生活設計 (1)	家庭基礎の1年間の学習を生かして、自分らしい生きかたを設計する。	これまでに学んだことを踏まえ、今後の自分らしい生き方を設計し、文章としてまとめることができたか。	思考力・判断力・表現力
3				

時数合計(70)

教科名	家庭	単位数	2		担 当	
科目名	保育基礎	必修 選択	必修	選択	学 年	2 年
教科書 副教材等	保育基礎（実教出版・・家庭 7 0 7） 保育基礎学習ノート（実教出版）					
選択対象者	人文コース、資格教養コース					
科目の 目 標	保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標		・保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。 ・実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。 ・周りの生徒と協働しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身につける。				
2 授業の進め方		授 業：1 週間に 2 時間、授業時数の半数は実習を取り入れ、実践学習（おもちゃ作り、絵本製作、子どもの衣服製作、離乳食・幼児食の調理、保育園訪問等）を多く行いながら進めていく。 授業準備：基本的に教科書とワーク、プリントで学習を進め、理解したことを単元テスト等で確認する。資料はファイルに綴じてまとめる。また、実習の時には遅れずに被服実習室に集まり、使用した道具は元通りに片付ける事。				
3 評価の規準		【知識・技能】 保育に関する基本的な技術を総合的に身に付けている。子供の発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。 【思考・判断・表現】 子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。				
4 評価の方法		授業態度、各種提出物の状況、実習、実習記録、演習の記録、自己研究、自己評価等を総合的に評価する。3 観点を同等に扱い評価を行う。				

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション (1)	保育の意義や方法、また、保育を学ぶ意味を考え、子育てには周囲の大人のかかわりが大切であることを理解する。	保育を学ぶ意味を理解できたか。	思考力・判断力・表現力
5	第1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の方法 ③保育の環境 (12)	保育が人間形成にどのように関わるか、また、保育者にはどのような資質が求められるかを知り、保育環境の特徴や役割を理解し適切な保育環境について学ぶ。	保育者の役割を理解し、その資質や能力を身に付けるための考察が出来る。また、発達時期の特性を考慮した保育の工夫が大切であることや、保育の環境がこどもの発達に大きな影響を与える事を理解し適切な保育環境を整備することの重要性を考える事ができているか。	思考力・判断力・表現力
6				
7	第2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②子どものからだの発達 ③子どもの心の発達 ※月齢・年齢別の発達・発達 (16)	胎児の生育環境である母体の健康や、乳幼児期が人間の発育・発達にとって大切な時期であること、また、それぞれの月齢や年齢に応じたからだの発育や心の発達の特徴を理解する。	胎児の生育環境である母体が、子どもの発達に大きな影響を与える事を理解することが出来ているか。また、胎児期から幼児期までの発達段階に応じた子どもの特徴を理解し、子どもの心の発達には愛着関係の形成が重要であることを知ったうえで、保育に関連付けて考察することが出来ているか	思考力・判断力・表現力
8				
9	第3章 子どもの生活 ①子どもの生活と養護 ②生活習慣の形成 ③健康管理と事故防止 (16)	子どもが身に付けるべき基本的生活習慣や、社会的生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの心身の健康を支える技術を身に付ける(幼児食の調理実習含む)。	子どもの生活に関心を持ち、子どもの食生活や衣生活を含め、健康的な生活を支える技術を身に付けるとともに、子どもの生活習慣の形成や健康管理についての理解が出来ているか。	思考力・判断力・表現力
10				
11	第4章 子どもの文化 ①子どもの文化の意義と支える場 ②子どもの遊びと表現活動 ③子どもとのかかわってみよう(保育実習) (18)	絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの文化を支える場が子どもの健やかな発達とどのように関わっているか、その意義について理解する。また、実際に子どもと触れ合う機会やおもちゃ作りなどを通して子どもとの適切な関わり方など保育への理解を深める。	子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することが出来ている。また、保育実習やおもちゃ作り等を通して、遊びが子どもの発達を豊かにしていくことを実践的に理解し、その技術を身に付けているか。	思考力・判断力・表現力
12				情報収集・発信力 行動力 人間力
1				
2	第5章 子どもの福祉 ①子ども観 ②子どもの福祉 ③子育て支援 (6)	子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解し、児童憲章や児童の権利に関する条約等を通して子どもの福祉に関心を持ち、子育て支援の課題と展望について考察する。	子ども観の変遷や、子どもが権利の主体として尊重されつつある状況を理解しているか。また、児童福祉の基本的な考えを理解し、現代の子育ての現状をふまえこれからの子育てに必要な支援を考えられるか。	思考力・判断力・表現力
3	自己評価と授業評価 (1)			自己主張力

教科名	家庭	単位数	2		担 当	
科目名	保育実践	必修 選択	必修	選択	学 年	3
教科書 副教材等	保育実践（実教出版・家庭 7 0 9）					
選択対象者	保育に興味があり、保育基礎を履修済みである生徒、人文コース、資格教養コース					
科目の 目 標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標		・保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。 ・実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。 ・周りの生徒と協働しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身につける。				
2 授業の進め方		授 業：1 週間に 2 時間、授業時数の半数は実習を取り入れ、2 学年の保育基礎で学習した内容を復習しながら、実践学習（おもちゃ作り、絵本製作、子どもの衣服製作、離乳食・幼児食の調理、保育園訪問等）を多く行い、進めていく。 授業準備：基本的に教科書とワーク、プリントで学習を進め、理解したことを単元テスト等で確認する。資料はファイルに綴じてまとめる。また、実習の時には遅れずに被服実習室に集まり、使用した道具は元通りに片付けること。				
3 評価の規準		【知識・技能】 子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。				
4 評価の方法		授業態度、各種提出物の状況、実習、実習記録、自己研究、自己評価等を総合的に評価する。 3 観点を同等に扱い評価を行う。				

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
	オリエンテーション (1) 第1章 子供の表現活動と保育 ①子供の表現活動の面白さ ②造形表現活動 ③言語表現活動 ④音楽・身体表現活動 ⑤情報手段などを活用した活動 ⑥表現活動の実際 (2 3) 第2章 子育て支援と保育 ①子供・子育ての問題 ②子育て支援のための各種施設 ③子育て支援の実際 (2 3) 第3章 保育の活動計画と実習 ①保育の活動計画 ②保育実習 (2 2) 1 年 間 の ま と め (1)	保育の意義や方法、また、保育を学ぶ意味を考え、子育てには周囲の大人のかかわりが大切であることを理解する。 ①子供の表現活動の面白さを学習する。 ②子供の発達と造る・描く活動、飾られたものを見て楽しむ活動について学習する。 ③話す・劇遊び・人形劇、子供の言語表現を育てる児童文化財の活用について学習する。 ④子供と身体表現、子供の音楽環境・歌、演奏する、絵描き歌、手遊び（指遊び）、踊ることについて学習する。 ⑤情報手段を活用した活動について学習する。 ⑥表現活動について学習する。 ①子供・子育ての現状、子育て支援の意義と役割、子育て相談の内容について学習する。 ②様々な子育て支援、幼稚園・保育所・認定こども園など保育の場での子育ての支援について学習する。 ①保育の実践（実習）と計画、活動計画（部分案）の作成について学習する。 ②実習を行うにあたって、保育実習、児童文化財を活用した実習・製作・実演などについて学習する。 1 年間の学習活動を振り返る。	保育を学ぶ意味を理解できたか。 子供の表現活動の意義と重要性を理解し、子供の様々な表現活動を促す技術を身に付けることができたか。 子供の様々な表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することが出来たか。 子供の表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むこと。 現代社会における子供・子育ての問題や、子育て支援について理解し、関連する情報を収集・整理することができたか。 地域の様々な子育て支援について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができたか。 子育て支援と保育について自ら学び、保育や濃さ建て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 保育について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けることができたか。 保育実習を通して、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することが出来たか。 保育の活動計画と実習について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 1 年間の学習を通しての振り返りがしっ かりできたか。	行 動 力、 思 考 力・判断力・表 現力 思 考 力・判 断 力・表現力 情報収集・発信 力 思 考 力・判 断 力・表現力、人 間力

時数合計（70）

教科名	家庭	単位数	3		担 当	
科目名	フードデザイン	必修 選択	必修	選択	学 年	3
教科書 副教材等	フードデザイン （実教出版・家庭 7 0 3） フードデザイン学習ノート（実教出版・家庭 7 0 3 準拠）					
選択対象者	資格教養コース					
科目の 目 標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、食生活にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。					
身に付けさせたい資質・能力						
健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力、自己主張力、情報収集・発信力、人間力、忍耐力						
1 授業内容・具体的目標						
(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。						
(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。						
(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。						
2 授業の進め方						
授 業：基本的に教科書の内容に沿って展開し、実習・演習・発表等を多く取り入れて実践的・体験的な学習活動になるよう進める。						
授業準備：教科書・学習ノートを準備する。また、実習の時には衛生面に十分な配慮をし、必ずエプロンと三角巾を持参、身支度をして実習を行う。						
3 評価の規準						
【知識・技能】						
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。						
【思考・判断・表現】						
食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。						
【主体的に学習に取り組む態度】						
食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。						
4 評価の方法						
授業態度、各種提出物の状況、調理実習、実習記録、定期考査、小テスト、実技テスト、自己評価等を総合的に評価する。3 観点を同等に扱い評価を行う。						

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	オリエンテーション (1)		食べることの意義を考え、自分のものとしてとらえることができたか。	思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力
5	第1章 食生活と健康 ①食事の意義と役割 ②食をとりまく現状 (3)	①身体をつくる食事、食生活を豊かにする食事について学習する。 ②栄養摂取の変化と現状、生活習慣病と欠食、ライフスタイルの変化、食料自給率と食品ロス、食品の安全と環境の変化について学習する。	心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について考えることができたか。	健康・体力、行動力、思考力・判断力・表現力
6	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 ①栄養素のはたらき ②ライフステージと栄養 ③食事摂取基準と食事計画 (20)	①食品の摂取と栄養、五大栄養素、その他の食品成分、エネルギーについて学習する。 ②乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の栄養について学習する。 ③日本人の食事摂取基準、食事計画について学習する。	栄養素のはたらきについて興味を持って授業に取り組んでいる。 栄養素のはたらきについて理解し、食事摂取基準やライフステージにおける栄養計画を立てる知識を持っている。 栄養素の働きについての関係性から、食事摂取基準を考えながら食事計画を立てることができる。	思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力
7	第3章 食品の特徴・表示・安全 ①食事の特徴と性質 ②食品の生産と流通 ③食品の選択と表示 ④食品の衛生と安全 (20)	①穀類、いも類、砂糖、豆類、種実類、野菜類、果物類、きのこ類、海藻類、魚介類、肉類、卵類、牛乳。乳製品、油脂類、観点・ゼラチン、嗜好食品、調味料・香辛料、加工食品と加工方法、特別用途食品と保健機能食品について学習する。 ②第一次産業の現状、食品の生産、流通について学習する。 ③多様化の背景と現状、食品の選択・表示について学習する。 ④食中毒、台所の衛生、食品添加物について学習する。	食品の特徴や表示、食品の安全に興味を持って取り組んでいる。 食品の特徴や性質、生産と流通、食品の選択と表示、食品の衛生と安全について深く考えることができる。 食品の衛生と安全について実践できる。 食品の特徴や性質、生産と流通、食品の選択の表示、食品の衛生と安全についての知識を持ち、理解している。	思考力・判断力・表現力
8				
9				
10	第4章 調理の基本 ①調理のおいしさ ②調理操作 ③調味操作 (7)	①調理の目的、食べ物のおいしさについて学習する。 ②非加熱操作、加熱操作、加熱調理器具について学習する。 ③調味の目的、調味をする段階について学習する。	調理の目的を理解し、調理器具や調理方法について基礎的・基本的な知識を身につけることができたか。	思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力
11	第5章 料理様式とテーブルコーディネート ①料理様式と献立	①日本料理・西洋料理・中国料理の様式と献立、日本・世界の食文化について学習する。	日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式についてそれぞれの特徴や献立構成を理解し、目的に応じた献立が作成できるようにする。	思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力

12	②テーブルコーディネート (20)	②テーブルコーディネート基本、和風・洋風・中国風のテーブルコーディネート、室内のコーディネートについて学習する。	料理に応じて、適切な食器などの選択が出来るようになり、盛り付けや配膳が出来るようになったか。	思考力・判断力・表現力、情報収集・発信力
	第6章 フードデザイン実習 ①献立作成 ②調理実習 (30)	①日常食の献立作成条件・手順、供応食・行事食、テーマ設定と調理実習について学習する。 ②調理実習	行事食作りを通し、伝統的な食生活の特徴や食育の意義を理解することができたか。	
	第7章 食育 ①食育の意義と推進活動(3)	①食育の意義と課題、食育推進活動例		
1	1年間のまとめ (1)	1年間の学習活動を振り返る。	1年間の学習を通しての振り返りがしっかりできたか。	

時数合計(105)